

(様式1)

自己評価票

作成日 平成 25 年 9 月 28 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0871200218		
法人名	医療法人 永慈会		
事業所名	ひたちの森スマイルハウス太田	ユニット名	ひまわり
所在地	〒313 - 0042 茨城県常陸太田市磯部町90-1		
自己評価作成日	平成 25 年 9 月 28日	評価結果 市町村受理日	平成 年 月 日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報	茨城県福祉サービス振興会のホームページ「介護サービス情報検索」から情報が得られます。
------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成 年 月 日	評価確定日	平成 年 月 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ホームで力を入れていた近隣住民との交流並びに幼稚園、小学校との交流も定着してきており、地域の方と一緒に社会生活を営む事が出来るホームになってきております。その他に近隣に同系列の病院、施設などが有る事により、利用者様の心身の状態に合ったケアが可能になっている事と、御家族様の要望にも迅速に対応する事が出来る様になっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

--

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
I 理念に基づく運営			
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作成し、業務前に理念を読み上げ全職員が理念を理解し共有できるよう日々、努めています。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティア・体験学習・インターシップなどの受け入れを通じて広く地域に開放しています。また、地域の常会に加入し夏祭り・小学校の運動会・お餅つき等のイベントに参加したり、事業所でイベントを企画し地域の方に参加を促しながら交流を図っています。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の総合学習の受け入れ・高校生の職場実習等を積極的に受け入れています。また、見学や相談に来た方へは、出来る限りお役に立てられるように心掛けながら随時、介護専門員及びホーム責任者が対応しています。
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の際の意見や要望は記録に残し改善やホームの向上に活かすようにしています。また、会議に参加されている方からの意見も参考にしながらサービスの向上に努めています。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ホームの介護支援専門委員が市町村の担当者と随時、連絡や行き来をし情報やアドバイスを頂きながらサービスの向上に取り組むように努めています。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束、その他の行動制限廃止マニュアル等を作成し、何時でも個々のスタッフが再確認できるようファイリングし現場スタッフが目の届き易い場所に保管しています。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	膳職員が研修、講義、勉強会に参加し虐待について学んでいます。また、現場でも定期的に勉強会を開き虐待が起らないよう全職員が一丸となり虐待防止に常時努めています。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者・職員は研修等に参加し日常生活自立支援事業や成年後見制度に付いて学び、円滑に対応できるよう努めています。また、ホーム内でも勉強会を開くようにし全スタッフに制度の理解をして貰えるよう努めています。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時には利用者、御家族の方に分かり易く説明し理解・納得を頂けるように努めています。
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に御意見箱を設置し利用者、御家族の方が何時でも意見や要望を施設側に伝えることができるようになっていました。また、施設には苦情受け付けの担当者も設けており、苦情・意見の対応の他、運営に反映させるよう努めています。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度リーダー会議を開く他、ユニット毎に週に1回ユニット会議を実施し、その都度スタッフから出た意見を記録に残し運営に反映させるよう努めています。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が安心して働けるよう本部と話し合いや相談を行いながら環境整備に努めています。また、運営者は実績・勤務状況を把握した上で、個々に応じたアドバイスをを行っています。
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画の作成をした後、研修に参加しています。また、研修終了後は報告書を作成し、研修内容を全職員に伝達するようにしています。その他に研修した事を現場で活かせるよう勉強会を開き現場で実践していくよう努めています。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同系列の施設交流の他、地域のGH連絡協議会へも参加し同業者同士の情報交換を随時行いながら互いにサービスの質を向上させていくよう努めています。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホーム利用前に家族、本人に要望及び希望を聞きホームでの生活を支援する上で参考にしています。また、入所した時点で本人の話を聞き内容に応じて家族の方の協力を得ながら対応するようにしています。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談の時点で家族の要望、希望及び困っていること等を聞き、その都度対応しています。また、入所後も家族の相談を随時受け付けており改善に向け適切な対応をするよう努めています。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人は元より家族からの要望が有れば、随時に対応するようにしています。また、利用者の状態や家族の希望を聞き、それらを基に介護方法を決めるようにしています。
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	全職員が利用者と共に食事をしたり、お茶を飲んだり、家事仕事を一緒にしながら家族のような関係を築いていけるようにしています。また、利用者と職員の間には壁を作らないよう日々、配慮するように努めています。
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来た時は、お茶を出し家庭的な雰囲気の中で話が出来るように配慮しています。職員も介護をする上で困ったことが有れば家族の方に遠慮なく話し、家族の方と一緒に利用者支援していくようにしています。
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の友人や知人が何時でも逢う事が出来るようになっていきます。本人や家族の方からの要望が有れば以前住んでいた場所へドライブに出掛けたり、その周辺を散策したりして頂いています。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いが楽しく生活できるように、個々の利用者の性格、相性を考慮しつつ、利用者同士が楽しく生活出来るように援助しています。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても手紙や電話などで利用者の状況を確認するよう心掛けています。また、家族から何らかの相談があった場合は、出来る限りのアドバイス等をするように心掛けています。
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者と触れ合う時は、一人一人の人格を尊重し対応するよう努めています。本人がホームでの生活の中で何を思い、何を望んでいるのか全職員が観察、記録し本人の意向に沿った生活環境を作り上げるよう絶えず努力しています。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活歴を念頭に入れ支援を行なっています。利用前には家族、本人から在宅時の生活状況を伺いサービスに活かすようにしています。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活で本人が出来ることは、出来る限り口出しせず本人に委ねるようにしています。また、日々の生活の中で絶えず心身の状態を観察し、状態に応じて対応するようにしています。
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書を家族や本人に見て頂き、一緒に情報を共有できるように配慮しています。また、その都度、家族、本人からの意見や要望が有れば、それに沿った計画書をチームで取り組み作成するようにしています。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の日誌に、その時々々の状態や状況を記録し全職員で情報の共有を図りながら支援しています。また、状態に変化が見られた時は、その都度チームで見直しを行い統一した支援を行なっていくようにしています。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院が母体なので、家族及び本人からの要望が有れば医療機関に協力を依頼し、専門職のアドバイス等を参考にしながら支援を行なうようにしています。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	積極的に地域の行事に参加したりホームのイベント参加を地域の方へ呼び掛け一緒に行動して貰えるよう努めています。その他に近隣の公園へ好きな時に出掛けたり、お店で買い物をして貰ったりと本人の妨げにならないよう配慮しながら支援しています。
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当法人の居宅療養管理指導や、定期的な受診・検査を実施してします。また、本人及び家族からの要望があれば好きな医療機関に受診して貰うよう臨機応変に対応しています。
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホームには担当の看護職員が居り随時、利用者の心身の状態を報告し健康管理に努めています。また、現場スタッフもバイタルチェックを午前と午後に実施する他、表情観察等を随時行い変化があれば医療機関に直接、報告するなどして柔軟な対応をするよう心掛けています。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	認知症療養病棟を持っている病院が母体のホームなので、常に利用者にとって最善の方法を医療機関と相談しながら対応しています。また、利用者が入院中は少しでも安心して頂けるようホームの職員が出来る限り顔を出すようにしたり、ケースワーカーを通じて入院時の状況（状態）を確認しています。
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期が訪れた場合は主治医・家族・職員で話し合いをし家族の意向を理解した上で主治医と相談しながら対応しています。また、本人の意向もホーム利用開始直後にそれと無く伺っておき重度化や終末期が訪れた場合、本人の意向を最優先に支援していけるよう取り組んでいます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを備えています。緊急時の対応マニュアルを整えてマニュアルに沿って対応出来るようにしています。
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2度、消防署の協力を得て避難訓練を実施しています。その他にホーム独自に月に一度、夜間時の緊急連絡を実施したり、避難訓練を実施しながら災害時に備えられるよう努めています。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者への声掛けの際には、名前に語尾に「・・・ちゃん」付けをしないよう日頃から注意しながら声掛けを行っています。また、利用者と話をする時も表情を観察しながら話をし、本人が嫌がるような話は出来る限り避けるよう常日頃から留意し対応しています。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に自己決定を基本として対応しています。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日一対一で話をし、本人が何をしたいのか、今日一日どう過ごしたいのか等を聞き、職員は本人が1日を自分のペースで希望通りに過ごす事が出来るように配慮しながら支援するように努めています。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の気分に合わせて、お洒落を楽しんで頂けるよう配慮しています。職員がアドバイス程度に留めるようにし、最終的には本人に委ねるよう心掛けています。
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家庭的な雰囲気の中で、職員と利用者が一緒に食事を作ったり、同じテーブルで会話を挟みながら楽しく食事が出来るよう配慮したりしています。片付けなども無理強いしないよう注意しながら声掛けを行っています。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の記録用紙に食事量、水分量など毎日記録し、場合により管理栄養士の指導を受けるようにしています。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の見守りや介助を通じて歯磨き、嗽、入れ歯の手入れを徹底しています。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握する為、プライバシーに留意しながら観察、記録を行い支援に活かせるように努めています。また、排泄パターンの把握や排泄の失敗の原因究明などをしながら支援方法を決めるようにすると共に、紙パンツ及びオムツの使用を出来る限り減らして行くよう努力しています。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分のチェックや運動に気を付けて対応しています。状態により主治医と相談し整腸剤・下剤で対応するようにしています。
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者の希望に合わせ直ぐに入浴して頂けるよう準備をしています。また、入浴の際にも出来る限り寛いで頂けるよう利用者の意思に任せるようにしています。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の排泄パターンを把握する為、プライバシーに留意しながら観察、記録を行い支援に活かせるように努めています。また、排泄パターンの把握や排泄の失敗の原因究明などをしながら支援方法を決めるようにすると共に、紙パンツ及びオムツの使用を出来る限り減らして行くよう努力しています。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人での服薬管理が難しい場合、職員が管理し適切な用法、用量を厳守しながら内服支援に努めています。また、職員は個々の処方箋を確認したり、医師に尋ねる等して利用者の内服薬について理解するよう努めています。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の個性・現在の能力を考え、その人の出来る事を支援しています。食器を洗う、洗濯物を畳む、新聞を読む、広告を見るなど。
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブのほか地域で実施している祭り、イベントなど積極的に参加するようにしています。その他に年間行事の一環としても花見や地区外にドライブを家族同伴で出掛ける機会を多く設けるように努めています。また、本人及び家族の方の要望が有れば何時でも外出や外泊が出来るよう臨機応変に対応しています。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>出来る限り職員が関与しないようにし、利用者の希望通りに買い物などして頂くようにしています。場合により職員が本人に代わり金銭管理を行いながら、本人の要望に沿うよう支援しています。</p>
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>公衆電話を各ユニットに配置しています。手紙も依頼された時には本人に代わり出したりと臨機応変に対応しています。</p>
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節感を感じられるように装飾に工夫を凝らしたり、四季折々の花を飾ったりしながら、家庭的な雰囲気が感じられるよう配慮しています。また、1F・2Fの中央フロアにも椅子、テーブルを設置し何時でも何処でも寛いで頂けるよう配慮しています。</p>
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>プライバシーに配慮しつつ自由に過ごせる居場所の確保に努めています。1F・2Fフロアと廊下のスペースにソファや椅子を配置し利用者同士のコミュニケーションが円滑に行えるよう配慮しています。</p>
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>個人の趣味や今までの生活を重視し、安心して過ごして頂けるよう配慮しています。また、家族・本人の要望があれば在宅時に愛用していた物を持ち込んで貰い、自宅に居るような安心感を持って生活が出来るように支援しています。</p>
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>廊下、エレベーター、浴室などに手摺が設備されており日常常用されています。また、各部屋に洗面台が有り、自分で洗面や歯磨き等が出来るようになっています。</p>

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない